学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第2回、2025（令和7）年度）

中期経営計画期間は2024(令和6)年度から5年間であり、第2回の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学：入学定員×1.15） （高校：入学定員）	△	〇大学:５６４名（定員比△３６名） ※充足率９４．０％ 〇高校:２９９名（定員比△３１名） ※充足率９０．６％	＜大学＞ 〇学生募集・オープンキャンパスチームを中心に、附属高校、指定・協定校、同窓会、卒業生教員との連携強化策を深化させ、全学あげて定員確保に取組む。 〇オープンキャンパスやHP、公式SNS、大学案内等の冊子を活用し高校１年生にも響く質の高い情報コンテンツを整備し、保護者を含む幅広い層に対して大学PRを強化する。 〇年内入試の充実と選抜区分の整理を念頭に置いた、入試制度の見直しを行う。 〇学部留学生増に向けた海外協定校等との連携を蜜にする。 ＜高校＞ 展開。特に、福祉・普通科の定員充足に向けたＰＲの実施を行う。 〇高大７年教育に資する奨学制度の研究を行う。
＜個別・大学＞			
１．教育研究			
⑴学修者本位の学修の実現ならびに教育の質的転換	△	〇卒業時アンケート結果で学生の92.2%が本学の教育で成長できた又はややそう思うと回答。	〇学修成果の達成状況の分析等を行い、教育の改善につなげる。 〇ＤＸを活用した教育への質転換を

		○「DP到達度調査」を実施し、その結果を含めた学修状況について、ポータルサイトの「学生カルテ」で提供するとともに、卒業生には4年間の学修を図示 した「学修成果の指標」の学修配布を行った。	図るべく、双方向授業を大前提としたオンライン授業、オンライン併用授業の拡充を検討する。
⑴学修者本位の学修の実現ならびに教育の質的転換			
⑵カリキュラム改革	△	○カリキュラム・ポリシーの視点や授業内容の重複の確認を実施し授業７科目の削減を実施した。 ○地域を牽引する人材育成に繋げること及び大学が所在する柴田町を冠とした授業科目を新設した。 ○留学生を対象とする日本語教育の強化・拡充を目的に、科目の変更・追加を行った。	○教育課程の見直しを進め、授業配置の適正化に努める。 ○今の学生に必要な教養教育を見極め、改善を検討する。
⑶教員養成の更なる強化	△	○教員採用試験合格者１3名（中高保体2名,特別支援5名,小学校7名） ○令和８年３月、小学校免許状（二種）の教職課程認定を申請	○「教採塾Classroom」の充実や教員採用試験対策講座を継続実施し、教員採用試験に向けた指導体制を強化していく。教員採用試験現役合格者は、２０名以上を目標とする。 ○３年生からの教員採用試験を可能とする自治体の動向を迅速に把握・周知し、学生が早期から万全の体制で臨めるようサポート環境を整備する。
⑷高大接続・高大連携教育の一層の充実	△	○高大接続事業の提供科目として附属明成高校に「体育原理」「スポーツ指導者育成（サッカー、Cライセンス）」古川学園高校に、「体育原理」,柴田高校に「体育原理」「スポーツトレーニングを提論」を提供し、２８名の生徒の受入を図った。	○附属明成高校での「1年生からの意識啓発の取り組み」を進める等７年一貫教育について検討を深化させる。 ○連携高との関係を密にし、事業の拡大及び受け入れ生徒の増加を図る。

２．学生支援･キャリア支援			
⑴学生生活の更なる充実	△	○各支援機能において学生からの「相談しやすい窓口」に努め、それぞれの組織や教職員と横断的な連携しながら、学生の悩み等に丁寧かつ適切に対応した。 ○クラブ活動支援だけでなく大学祭や地域のイベント等に参画する機会を提供し、課外での学生生活の充実に取り組むことができた。 ○食糧費高騰対策として学友会や保護者会による学食での100円ランチを実施し、学生生活支援を行った。	○学生生活部内の各相談窓口をフルに活用し経済的事情や心と身体に様々な悩みを抱えた学生の問題解決に向け十分な支援を行う。 ○学生がクラブ活動や各種イベントなどのコミュニティに参画できる環境や機会を整え、ＩＣＴを活用した情供等、充実した学生生活のサポートを行う。 ○学食の費用補助など学生の負担軽減，生活支援を継続的に実施する。
⑵本学独自の給付型奨学金制度の拡充	○	○本学の給付型奨学金採択者として３名を支援し就学支援につなげた。 ○自治体等の奨学金情報を適時発信し学生の理解が深まるよう環境整備に 取組んだ。	○経済的に困窮する学生に早期アプローチを行い，早い段階から適切に支援できるよう努める。 ○新設された多子世帯への修学支援制度等をしっかり利用できるよう能動的な支援に取り組む。
⑶部活動及び課外活動の支援の強化	○	○学友会、保護者会と連携してクラブ活動費の支援を実施した。 また、特に優秀な成績を収めたクラブ・個人については懸垂幕の掲示、卒業式における理事長賞及び学長賞表彰の実施等、学生の意欲向上に繋がる取組みを実施した。 ○卒業生の広州２０２５世界リレー出場、現役学生の東京２０２５デフリンピックでのメダル獲得などの実績があり、今後もオリンピック・デフリンピック出場に向けて全学的な支援体制に取り組んでいる。	○学内組織及び学友会、保護者会との連携を図り、部活動及び課外活動支援を強化していく。 ○引き続き近隣自治体と協力体制を構築するとともに、各種競技の強豪校とのマッチングを中心としたホームゲームを開催し本学運動部の強化支援を継続する。 ○今後も卒業生を含めオリパラ・デフで活躍する選手の輩出に向けて全学的に取り組むとともに、同窓会による支援も活用していく。 ○各部活動への支援と成果の発信に努める。

⑶部活動及び課外活動の支援の強化		○女子硬式野球部が第１１回全国女子硬式野球選手権高知大会で初優勝（創部３年目）、漕艇部が第５２回全日本大学ローイング選手権大会女子エイト３連覇等の優秀な成績を収めた。 ○令和６年度・７年度には柴田町、亘理町および山元町において学生による中学校部活動支援活動体制を確立させるとともに本学学生指導者派遣を実施した。	○地域スポーツクラブ活動（または部活動）における大学生指導員の養成・確保に資するため、中学生年代への指導のあり方について拠点型スクールの随時開設により大学において部活動支援を強化していく。
⑷大学スポーツの強化とともに安全安心の向上	○	○学友会とスポーツ局との連携で安安全安心なクラブ活動を目的とした、熱中症や脳震盪等の対策研修会を実施した。 ○クラブ活動監督ミーティングを開催し、クラブ内のハラスメント防止の徹底や危機管理などの安全安心への取り組みの周知を行なった。 ○特別指定競技部（１８部）に対してスポーツ局から安心安全プロジクトを実施し,UNIVASのSSCを取得した。 （令和７年度には全運動部が認証取得）これにより安心・安全な大学スポーツ活動の実現に向けた環境整備を強化していることを内外に発信できることとなった。 ○令和７年度より、屋外施設を利用する競技を対象として希望する部活動等に雷探知機を貸与している。	○安心安全なクラブ活動運営の充実に向け、適切な危機管理態勢を整えられるようセミナー等の啓蒙活動を継続する。 ○先行して設置したAED以外にも、冷却用バス・パーティション・折り畳み式担架などを数ヵ所に設置するとともに、学内の施設入口およびフェンスなどに配置マップ看板を設置する。
⑸キャリア支援の更なる強化	△	○学生への就職支援の取組み時期を早め、よりきめ細かな指導に努め高い就職率を維持した(99.3%)。	○早期化、個別化する学生の就職活動の支援策を強化するとともに、丁寧な学生フォローを行う。

⑸キャリア支援の更なる強化		○公務員試験合格者数増加に向け、試験対策として模擬試験を実施した。 ○仙台経済同友会と連携し、部活動指導社員を採用する企業の説明会を実施した。 ○「未来先生」・学校インターンシップを実施し、学生が早期から教育の最前線を体感できる機会を増やすことにより、学生の高いモチベーションを維持することで、一定数の教員採用試験に合格させた	○公務員採用塾を開講し、公安系のみらず一般行政職を目指す学生へのバックアップを図る。 ○仙台経済同友会との連携を強化し、就職後もスポーツ指導ができる環境づくりを進める。 ○学生の不安等に寄り添い、迅速に対応していく仕組みを整備し、学生が安心して教育現場に挑戦できる環境を構築していく。
３．地域貢献			
⑴市町村との一層の連携強化	○	○岩沼市、柴田町、亘理町、山元町および富谷市の中学校部活動支援により、地域貢献の推進および学生の指導実学機会の拡充を図った。 ○令和６年度・７年度には柴田町「未来アスリート育成」・「未来先生」、大河原町「３小学校との体力づくり連携事業」を予定通り実施した。 ○６年度に引き続き、第２回アイリオーヤマ杯女子硬式野球交流大会を、柴田町、白石市、角田市、蔵王町の後援により、令和７年４月１９・２０日に開催した。（蔵王町政７０周年記念大会として） ○令和７年度には沖縄県石垣市と地域社会の発展と人材育成への寄与を目的に包括連携協定を締結した。石垣市内における「合宿＋アルバイト」も継続実施し、同市から高	○中学校部活動支援及び健康推進事業等の市町との連携事業を計画的に継続・実施する。 ○柴田町教育委員会とGoogleフォームで収集した未来先生の参加状況と学生の相談状況をデータで共有し連携強化を図り未来先生を充実させていく。 ○アイリスオーヤマ杯女子硬式野球交流大会を継続し、協力市町との連携を強化する。（第３回大会は令和８年４月１８・１９日に開催柴田町政70周年記念大会として） ○活動定着に向け、石垣市との連携を更に強化する。 ○プラットフォームによる具体的な活動を進めていく。

⑴市町村との一層の連携強化		く評価された。 〇尚絅学院大学と柴田町・岩沼市・名取市及びイオンモール名取・フクシエンタープライズ社との７機関で「宮城県南地域産官学連携高等教育プラットフォーム」を構築した。	
⑵県内のプロスポーツや産業界との一層の連携強化	△	〇令和7年度も、アカデミックパートナーシップを締結する東北楽天、ベガルタ仙台、仙台89ERSに対し、「キャリアプランニングⅡ」によるインターンシップを継続実施した。 〇令和７年度は、アカデミックパートナーシップを締結するマイナビフットボールクラブとの連携により、授業科目「スポーツ指導者育成（サッカーCライセンス）」を新設し、サッカー指導者の育成を開始した。 〇鹿島建設との共同研究を継続中	〇プロスポーツや産業界と連携した活動を継続しながらも、連携をさらに強化して、多くの学生が地域に参画しながら学べる場の拡充に努める。 〇共同研究を取り纏め、引き続き研究内容の深化を図る。
⑶防災教育、SDGsの積極的な取り組み	△	〇「自然災害と人間」受講学生数157名 〇防災士受験者は80名、資格取得学生数7名（学外63名） 〇地域での防災活動（「防災寺子屋」）の実施回数7回、参加者数246名	〇受講学生と防災士資格取得者数の増加に向けた広報活動の展開 〇柴田町と連携し、地域の安全・安心に資するため、防災の分野で相互に協力しながら地域社会と一体となった「地域の防災力」の持続的な向上を図っていく。
⑷リカレント教育の更なる充実	△	〇大学院の令和８年度社会人入学者３名（うち留学生２名） 〇社会人を対象とした１年コースへの令和８年度の入学者なし	〇ガイドブックの配布機会の拡大、HPやSNSでの情報発信などを通して,現職教員や社会人に対し,大学院での学びについて広く周知する。

４．国際交流			
⑴学生の海外派遣の一層の充実及び海外からの留学生受け入れ強化	△	○令和７年度は、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の補助金を利用したプログラムについては５プログラムが採択され実施した。また上記プログラム以外にも「中国（上海）」、「フィンランド」の2プログラムを実施しており、JASSO補助金利用プログラムと合わせて26名の学生を派遣した。 ○短期研修プログラムの受入れは昨年度同様のプログラムの実施に加えて、スポーツ交流（台東大学野球部の受け入れ）も行った。 ○中華人民共和国の日本語養成高校との連携については、対象校内に仙台大学の広報拠点を設置するとともに、校長が本学に来学し情報交換を行い、本学学部への受験につながった。 ○令和８年度大学院入試において、留学生７名が合格した。（瀋陽師範２名、上海体育１名、万葉日本語２名、国費１名、他１名）	○令和8年度はJASSO奨学金プログラムとして５プログラム採択されておりすべて実施する方向で取り組む。 ○連携協定を締結した各教育機関からの学部留学生の増加を目指す。 ○学部留学生に対する日本語教育を強化する。 ○留学生数拡大に向け海外協定校との連携を図るとともに、日本語教育を含めて留学生の受け入れ体制の強化を図る。
５．学生募集			
⑴学生募集の強化	△	○令和７年度入学生数５６４名（定員６００名）、編入学者数２名（定員２４名） ○担当制による教員の高校訪問を行い、大学の情報提供および高校の情報収集を行うことにより、きめ細やかな学生募集活動を行った。	○対象高校を拡大して教員による訪問等の接点を増やし、教職員が一丸となって全学体制で学生募集に注力する。 ○校長経験者による宮城県内の高校訪問専担チームを組織し、本学の特色を伝える情報提供および生徒

⑴学生募集の強化		○宮城県内の高校の同窓生教員を対象とした大学説明会を開催し、意見交換を含め学生募集活動を強化した。 ○メディアミックスを活用した大学案内の作成、LINEを活用した入試およびOC情報の発信を強化した。 ○北海道地区の本学卒業教員に対する訪問等により情報提供・収集を図り、志願者数の増加に努めた。 ○学部留学生増を目的に中国瀋陽市に仙台大学の広報拠点を設置、学部留学生１名入学	動向の把握に努め、志願者数の増加を図る。 ○ＨＰやＳＮＳ広告等あらゆる媒体による情報発信を工夫し、実効性のある大学紹介の機会を増加させる。 ○高校のニーズに応じた指定校枠の設定及び早期の提示等、指定・協定校、附属校との繋がりを深め、志願者数増加に努める。 ○中国連携校を介しての学部留学生の増加を目指す。
⑵大学院の定員充足	△	○定員：４６名　現員：２９名 ○現員　１年：１８名　２年１１名 ○令和８年度入試結果：入学者１８名、うち、現役内部進学者９名、留学生７名 ○令和８年度の１年コースへの入学者無し	○学部との連携によるオリエンテーションでの大学院の説明の実施により、学生に大学院の魅力を周知 ○国際交流担当者との連携を密にするとともに、海外協定校・指定校との連携を深化させ、留学生数の増加を図る。 ○学内外に情報を広く発信することによって１年コースへの入学者獲得に努める。
⑶広報活動の強化	△	○本学HPに年間91本のトピックス記事を掲載するとともに、各報道機関に対して17本のプレスリリースを発信し、地域・全国への情報発信を強化した。 ○本学公式SNS（X、Instagram等）を通じた情報発信に注力し、フォロワー数は目標である5,000人を突破した。	○年間延べ100本以上のトピックス記事の掲載及び積極的なプレスリリースの発信を目指し、情報発信力の更なる強化を図る。 ○Ｘ、Instagram等のＳＮＳを活用し企画性の高い情報発信に取り組むことで、フォロワー数6,000人以上を目指す。
６．研究費等の外部資金獲得促進			
⑴外部資金の獲得に向けた積極的な取り組み	△	○科学研究費新規採択率40%に対して令和６年度は33.3%、令和７年	○継続して科学研究費および受託研究等の外部資金獲得に目指すとと

		度は7.1%と目標は未達であった。 ○鹿島建設㈱等との共同研究等を継続して実施し、外部資金を獲得している。 ○私立大学等改革総合支援事業「タイプ１(特色ある教育の展開)」及び「タイプ3（地域社会の発展への貢献）」の二つのタイプを申請し、タイプ１は選定となったもののタイプ３は不選定となった。	もに、研究活動の活性化を図る。 ○更なる共同研究先の発掘を目指していく。 ○タイプ1をブラッシュアップするとともに、地域社会の発展に貢献する課題に注力しタイプ３の採択を目指す。
＜個別・高校＞			
１．学科教育			
⑴学力向上に向けた授業改善の取組の推進	△	○学習支援ツール「Meta MOJi」等、ICTを用いた授業改善を行った。 ○学力差に応じた学力診断テストの実施した。 （基礎力診断・スタディサポート） ○成績会議、基礎力診断テスト分析会等を踏まえた指導の実践、課題共有化を行った。	○学力不振生徒への指導を工夫する。 ○学力上位層を伸ばす学習課題や手立ての工夫を行う。 ○専門教科と一般教科の横断的な学びによる生きる力の育成を行う。
⑵免許取得のさらなる強化	○	○〔福祉〕介護福祉士国家試験合格率１００%達成した。高大連携合同模擬試験の実施した。保育検定、障がい者理解サポーター養成の全員取得した。率１００%達成した。高大連携・ベネッセとの連携による専門的学びの強化と助成制度の創設した。 ○〔食文化〕調理師免許、食物調理技術検定、そば道段位を取得した。	○〔福祉〕国家試験対策、各種検定の継続実施に加え、認知症に関連する資格取得を検討中である。 ○［食文化］調理師免許の取得と職業意識の醸成、食物調理技術検定やそば道段位等の民間資格を活用した食文化教育の充実を図る。
⑶ICT機器を活用した教育活動	○	○全学年ｉｐａｄ所持完成年度。ｉｐａｄ,Meta Moijiを活用した指導実践と共有化を行った。	○ＤＸハイスクール事業を活用した生徒の主体的な探求活動の更なる推進を行う。

⑶ICT機器を活用した教育活動		○KMCH,実践Lab,各教室等のＩＣＴ諸機能を活用した指導実践と共有化を行った。 ○デジタル採点システムを活用した採点業務の効率化を実現した。 ○〔スポ・福祉〕DXハイスクール事業によるデータサイエンス・介護実習システムを導入した。	○校内の指導事例の共有化を図る。 ○外部の先行事例に学ぶ指導研究を行う。 ○仙台大学の教育資源の活用する。 ○〔福祉〕富士フイルムシステム（株）による介護実習支援システムによる遠隔指導を開始する。
⑷学科間連携取り組み	○	○〔スポーツ３年×福祉１年〕障害者スポーツ、スポーツ２年女×福祉１～３年〕ユニバーサルスポーツ、〔スポーツ２年×食文化２年〕味噌づくり、〔スポーツ３年×食文化３年〕味噌づくり・高大連携部活動への昼食提供	○各学科で調整中である。
⑸カリキュラム改革への取り組み	△	○福祉未来創志科令和８年度入学生の教育課程を変更した。 ○普通科教育課程の改定に向けた協議を行った。 ○大学（仙台大。東洋学園大）、地域、諸団体と連携した教育を実践した。 ○〔福祉〕２学年における専門科目･一般科目の配置を見直し、教育課程を一部改訂した。	○普通科教育課程の改定に向けた動きを加速化させる。 ○教育理念を具現化し、実社会が求める資質・能力が身につく人材育成教育の研究を行う。 ○〔福祉〕令和８年度入学生から改訂教育課程を実施する。
２．生徒募集			
⑴定員確保に向けた取組強化	△	○中学校教員・学習塾講師を対象とした授業公開を実施した。 ○本校の現在の取組を周知すべく、来校者増を目指した諸策を実施した。 ○前例踏襲に留めることはせず、新規企画を実施する。	○中学生、保護者、教育関係者の関心を引く情報発信の質・量の向上を図る。 ○来校者、受験者、入学者増に向けた諸策を実施する。 ○学校の強みをＰＲする活動の促進させる。

⑴定員確保に向けた取組強化		○入学者増、定員確保未達であった。 ○〔福祉〕福祉科教員による仙台市内重点校への中学校訪問、SNSによる積極的な情報発信、Welfare camp、FukushiFestival等の魅力ある行事企画、出前授業を行った。	○〔福祉〕情報発信・行事企画の継続実施福祉科教員による中学校訪問の実施を行う。
⑵広報活動の強化	○	○予算内で、自作や外部機関の協力による広報活動を実施しする。 ○LINEを活用した定期的な情報発信する。 ○自作動画の作成、Webメディアを通じた発信を行った。 ○〔福祉〕生徒によるInstagram、TikTokの配信を行った。	○定期刊行物の発行、Web配信する。 ○管理職による中学校訪問を大幅増加する。 ○〔福祉〕生徒によるInstagram、TikTokの配信にくわえ、HPのブロ ○〔福祉〕生徒によるInstagram、TikTokの配信にくわえ、HPのブログも充実させる。
３．大学との連携			
⑴高大連携による授業を構想・実践し、専門学科教育の充実	○	○〔スポーツ〕仙台大学ＡＴ等による授業,子ども運動教育学科によるユニバーサルスポーツの授業等を行なった。 ○〔福祉〕レクリエーション実技、介護ロボット講習会、護身術の授業を実施した。 ○〔食文化〕栄養科教員による指導、マイナビFC高大連携事業、子ども学科（大学）との連携授業等を行った。 ○〔普通〕子ども運動教育学科（大学）による連携授業を行った。	○高大連携意見交換会(5月)開催 年間計画について、課題点の共有高大連携意識の共有する。 ○授業見学会(9月) 開催 本校生徒・授業・諸活動について大学教員側と共通理解を行う。 ○総括会(2月) 開催 実績、課題・方向性の検討・確認を行う。 ３回の全体会議を軸として、高大各学科長及び実務者間で共学・共働・接続の新たな高大連携の促進と理念の構築を行う。
⑵本校と仙台大学を通した７年間の一貫教育により、専門知識を備えた社会で活躍できる人材育成	△	○個別相談会実施(７月) ○仙台大進学希望者への受験指導（小論文、面接、書類作成）を行った。	○年間計画及び高大教員の意識の共有による計画的で、より深い専門教育の展開を行う。

⑵本校と仙台大学を通した７年間の一貫教育により、専門知識を備えた社会で活躍できる人材育成		○高大連携の学びの場の設定した。 ○担当者間での意見交換 ○入学前課題終了の徹底を図った。 ○〔福祉〕高校で介護福祉士を取得し､大学でダブル/トリプルライセンスを実現した卒業生を紹介した。	○専門以外の様々な学科との連携による啓発、進路選択先の拡大を図る。 ○生徒・学生の交流による７年間の学びをイメージ化する。 ○〔福祉〕教員免許取得を目指す教育実習生の積極受入を行う。
⑶目的意識を持った仙台大学への進学者育成	△	○各学科毎に仙台大学を訪問し、学習や大学生活、卒業後の進路等への理解促進を図った。 ○仙台大学教員等による指導を通して学びの深化・健康スポーツへの関心を醸成した。 ○志望理由書等の添削を通した目的意識とキャリアプランニングの指導を行った。 ○〔福祉〕１１名中２名の卒業生が、社会福祉士・幼稚園教諭を目指して仙台大学に進学した。	○附属高校特別進学推薦入試に合わせた進路指導を行う。 ○大学卒業後の生き方・あり方を考えさせる進学指導の展開を図る。 ○学生の声を通した大学生活やキャリアプランニングをイメージ化できる場の創設を図る。
４．地域連携・国際教育			
⑴地域自治体との連携強化	○	○〔スポーツ〕スポーツ総合演習において川平小学校ミニ運動会企画提案とその実施や陸上教室の継続実施 ○〔福祉〕川平壮寿会との交流、桜ヶ丘地域包括支援センター、ベネッセスタイルケア、仙台市老施協との連携実施 ○〔食文化〕塩竈市、大郷町、マイナビ仙台レディスとの連携実施 ○〔普通科〕ろりぽっぷ学園との連携実施	○各学科で継続実施を予定する。 ○〔福祉〕仙台市健康福祉局との連携による小・中学校出前授業の新規企画に参画する。

⑵県内体育科との連携	○	○体育専門学科を有する県立柴田高・利府高の情報交換を行った。 ○北海道・東北地区高等学校体育科・コース連絡協議会事務局校としてのイニシアティブの発揮と同研究大会を初開催した。 ○文部科学省教科調査官の本校初来校による学園への理解醸成を図った。	○北海道・東北地区高等学校体育科・コース連絡協議会事務局の任は離れるものの、引き続き当地区でのリーダーシップの発揮と加盟各校からの仙台大学進学者増に資する公開研究授業等の実施を検討を行う。
⑶姉妹校との交流推進	△	○〔食文化〕韓国・光州自然科学高等学校との食文化交流（オンライン）の継続実施した。 ○〔普通科〕東洋学園大学との連携協定締結による探究活動の推進した。	○韓国・光州自然科学高等学校への訪問（訪韓）や在仙台同国総領事館主催際交流行事（キムチフェスティバル等）を活用した交流促進を行う。留学団体による短期留学生の積極受け入れも実施する。 ○大学教員による講演、本校生徒と学生との交流活動を活発にする。 ○海外への研修旅行を買う各学科で検討を行う。
＜個別・法人＞			
⑴ガバナンス改革の推進	○	○改正私立学校法及び寄附行為に基づき、改めて役員・評議員等を選任し体制整備を行うとともに、新たに整理された理事・理事会、監事及び評議員・評議員会のそれぞれの権限に基づいた運営をスタートさせた。	○継続した取組を実践する。
⑵安定した継続可能な財務基盤の構築	△	○継続可能な財務基盤構築に取り組んだ。 ○学生・生徒募集で定員確保できず経常収支差額は赤字継続である。	○継続した取組を実践する。
⑶活力があり働き甲斐のある職場の構築	○	○積極的に若手及び女性を登用し活力ある職場作りに努めるとともに、研修や定期的人事異動を実施することで人材育成を図った。	○継続した取組を実践する。

⑷人材の育成・登用を図る	△	○積極的に若手及び女性を登用し活力ある職場作りに努めるとともに、研修や定期的人事異動を実施することで人材育成を図った。	○継続した取組を実践する。
⑸業務の効率化・ＤＸ化	△	○学園システム運営の方向性について検討し、学園一体の運営体制を基本として、船岡及び川平地区のシステム基盤開発業者「株式会社日本事務器」のメンバーシップサービスを活用した運営を行い、必要な規定に則った情報システム運営体制を構築していくこととした。 ○事務事業の効率化、業務の標準化並びに学生支援機能の高度化を目的として、総務系・財務系・教務系システムを統合した「統合化事務システム」の導入を図るため、要件確認や運用設計を進めた。	○必要な規程等の整備、情報システム運営体制の早期構築を図る。 ○「統合化システム」の導入に向けた各種作業の加速化を図る。
⑹危機管理対応の強化	△	○「学校法人朴沢学園内部統制システム整備の基本方針」に基づき、災害、事故その他の緊急時の備えについては、「学校法人朴沢学園危機管理規程」、個人情報の保護と管理については「学校法人朴沢学園個人情報保護方針」及び「個人情報保護に関する諸規定」に基づき対応している。	○継続したマニュアルの見直し整備、適時訓練を実施する。